



奉納したアマビエこいのぼりを手にする窪野岳社長(左から2人目)と松下宗柏住職(同3人目)
—沼津市大塚の長興寺で

アマビエで悪疫退散

沼津の会社こいのぼり奉納

新型コロナウイルスの「退散」を願い、沼津市のホームページ制作会社オフィスグループが疫病を封じるといふ妖怪のアマビエをかたどった「アマビエこいのぼり」をつくり、16日に市内にある臨済宗の禅寺、長興寺に奉納し、悪疫退散の祈とうが行われた。



もっと知りたい

干物こいのぼりなどの変わり種こいのぼりをつくることで知られている。今年は「沼津こいのぼりフェスティバル」で掲げようとアマビエこいのぼりをつくったが、感染拡大防止のため、フェスティバルは中止に追い込まれた。一方、長興寺は赤ちゃんの「泣き相撲」で有名だが、この行事も中止になった。ともに子どもの健康を願う催しであることから、

オフィスグループの窪野岳社長(49)が長興寺への奉納を決めた。

奉納されたこいのぼりは長さが90センチ、口は直径が20センチ。顔はピンク色、目がばっちりの可愛らしいアマビエだ。境内の金毘羅堂で松下宗柏住職(71)が太鼓をたたきながら「莫多南鬼、速去、速去」と禅寺に伝わる悪疫退散の祈とうをささげた。

窪野社長は「うちの会社だからできることをとってつくった」と説明。松下住職は「コロナにまだ治療薬がない点は、天然痘やコレラなどへの治療法が分からず、アマビエに頼った江戸時代と全く同じ。心一つにしてコロナの流行を終息させたいという思いを込めて奉納した」と話した。

【石川宏】